



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 020 Jan 17, 2005

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●米国、カナダ産生体牛輸入再開へ

米国農務省は、各国のBSEステータスの徹底的な見直しの結果、効果的なBSE予防・検出対策を実施している国を最小リスク国とし、月齢30ヵ月以下の牛の輸入を認める方向でルール変更を行うと発表した。

それに従い2005年3月7日より、最初の最小リスク国カナダからの生体牛輸入が19ヵ月ぶりに再開される。対象は処理場直行牛と肥育素牛のみで、繁殖牛は含まれていない。カナダ産の表示が義務づけられ、輸送用トラックは20カ所の通関地点から目的地まで封印され、目的のフィードロット搬入後は他施設への移動が禁止される。

今回のルール変更で、2005年度のカナダからの生体牛輸入頭数は約95万頭で、2005年3月からの1年間で約200万頭に達すると同省は予想している。これはピークを記録した2000年の170万頭を若干上回る数字。国内の処理頭数が過去5年間の3,500~3,600万頭レベルから3,250万頭に減少しているため、カナダからの輸入分は容易に吸収できる模様。カナダ国内の処理施設の増加や、価格も最終的には米国とカナダで同レベルに落ち着くため、カナダ牛の輸入はその後減少すると農務省では見ている。

最小リスク国の要件は以下の通り:

- ・特定部位の食品への使用禁止
- ・BSE予防のための厳重な輸入制限
- ・国際基準同等、又はそれ以上のBSE監視プログラム
- ・反芻動物由来飼料禁止の徹底
- ・必要に応じた疫病検査、リスク分析・軽減対策の義務づけ

※2004年12月29日米国農務省ニュースリリース&2004年12月29日 Meatingplace.com

●2004年度BSE検査実績

昨年度、米国農務省動物衛生検査検疫局(APHIS)は、年間合計で17万6,468件のBSE検査を実施した。月別内訳は以下の通り。*ただし1~5月は 免疫組織化学検査(IHC)、監視体制を強化した6月以降はダブルチェックを行うBSE迅速テスト。

1月	2月	3月	4月	5月	6/1~7/4	7/5~8/1	8/2~9/5	9/6~10/3	10/4~10/31	11/1~12/5	12/6~1/2
1,680	1,524	2,292	1,857	1,639	12,398	15,828	24,383	21,107	25,476	36,961	31,323

IHCの再検査に回されたのは3件のみで、いずれも最終的に陰性と確認された。同局のクリフォード副行政官は、「検査は極めて感度が高いため、誤って陰性反応が出ることもある」と述べている。

※2004年12月 aphis.usda.gov/&2004年11月23日USDAステートメント



米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

牛肉市況 (12月27日～30日)

- **週間と畜頭数** : 49.7万頭(前年比10.7%増)。
- **肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり)** :
 主要5市場では、平均87.50ドル(前週比2.20ドル安)。(BSE牛が発見された昨年12月4週の取引価格は74.30ドルだった) 枝肉価格は平均138.70ドル(同1.60ドル安)。
- 昨年度は多少の波があったが、牛肉の需要高とそれに伴う肥育牛の高値は、2003年12月時点での予測を大幅に上回り、通年で見るとほとんどの肉牛生産者にとって極めて望ましい結果に終わった。今年も前年の高い伸びを維持できるか、また日本が米国・カナダ産牛肉輸入をいつ再開するかは業界の注目が集まっている。

※2004年12月30日 Cattle Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

主要12州¹のフィードロット内頭数²、前年比微増
(2004年12月1日現在)

	2004年 ³	対前年
11月1日現在フィードロット内頭数 ⁴	11,334	103.0%
11月導入頭数	1,743	90.0%
11月出荷頭数	1,625	106.0%
11月のその他の消失 ⁵	108	111.0%
12月1日現在フィードロット内頭数 ⁴	11,344	100.0%

注:1.アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン
 2.収容頭数1,000頭以上。
 3.単位:1,000頭。
 4.穀類あるいは他の濃厚飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。
 5.死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。
 ※2004年12月30日 Cattle on Feed (米国農務省)

● **オーストラリア、ブラジル、牛肉輸出で新記録**

世界最大級の牛肉輸出国である両国は、各国の米国産牛肉輸入禁止以降、牛肉輸出を伸ばしている。オーストラリアの日本向け輸出は過去最高で、2004年11月は前年同期比で46%増の36,097トン、1～11月でも38%増の360,078トンで、年間合計390,000トンになる見込み。一方、ブラジルの世界各国への1～11月総輸出は前年比45%増の105万4,000トンで、総輸出高も22億5,100万ドルと、前年の13億6,000万ドルを上回っている。

※2004年12月20日 Cattle Buyers Weekly

米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (12月27日～30日)

- **週間と畜頭数** : 12/25の週は前年比7.7%増、今週は前年の1,797万頭と同レベルの見込み。
- **肉豚の現金取引価格** : 主要市場の価格は前週比横這いから5ドル高で推移。

主要市場における100ポンド(約45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

185ポンド物(約83.5kg)の 枝肉平均価格 (US\$)

	12月30日		12月30日
ペオリア	45.50	東部トウモロコシ地帯	60.23
セントポール	48.00	西部トウモロコシ地帯	66.54
スーフォールズ	50.00	アイオワ・ミネソタ	66.04
ミズーリ中央部	43.00	全 国	63.28

※2004年12月30日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

- 昨年は「低炭水化物の食事を摂る消費者がピーク時より大幅減少」と報じられたが、11月までで成豚の需要の落ち込みはなかった。12月1～3週の価格下落は10月時点で予想されたもので、今週の数字を見ても成豚・豚肉の需要は引き続き高いことを裏付けている。昨年同様の需要が維持されれば、今年の価格は成豚が最終市場で47～50ドル、51～52%赤身肉がUSベースで50～53ドル、上枝肉は生産者販売価格で67～72ドルと予測している。また処理頭数は昨年実績の1%以内で変動する見込み。

※2004年12月30日 Hog Outlook(Glenn Grimes & Ron Plain)



米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況(12月27日～30日)

●米国の豚肉輸出、過去最高を記録

牛肉業界が各国の米国産牛肉輸入禁止で苦戦する中、豚肉業界はアジア向け輸出や特にメキシコ向けハムの輸出好調に支えられ、輸出量、輸出高ともに過去最高を記録している。2004年1～10月だけでも819,964トン(前年同期比34%増)、17億8,900万ドル(同38%増)と2003年度の年間実績(757,905トン、15億8,200万ドル)を上回っている。日本向け輸出も前年比で輸出量は12%、輸出高で20%伸びて258,663トンと8億1.320万ドルを記録しているが、輸出量では対メキシコがトップ(286,114トン)で、5年連続で過去最高を記録している。またカナダ、中国、台湾向け輸出も過去最高を達成する見込み。

※2004年12月20日 Cattle Buyers Weekly

業界ニュース

●クリスマスディナーは赤身肉が人気

今シーズンは伝統的なターキーやハムに加えて、牛肉ではヒレ、プライムリブ、ショートリブの売れ行きがよい。ビーフディナーに切り替えたり、調理済みディナーを付け合わせやデザートも含めて購入する傾向は年々増加していると、小売り業者は述べている。

※2004年12月22日 MyCattle.com

プレゼント

★『Be&Po』1月号プレゼント

アメリカン・ミートに関するおいしい情報、詳しい情報が満載の季刊誌『Be&Po』をプレゼントします。今号では、「おいしいニューヨーク」と題してニューヨークのステーキハウスや話題のレストランのポーク料理レシピなどを紹介しています。ご希望の方は、下記URLからアクセスしてお申し込みください。

お申し込み受付ページ:<http://www.americanmeat.jp/cgi-bin/campaign/renewal/index.cgi>

お問い合わせ:米国食肉輸出連合会 TEL:03-3505-5553 担当:島田